

第3回 阿賀野市地方創生市民会議 議事要旨

1 会議の概要

日 時 平成27年9月14日(月)午後3:00~5:00

場 所 阿賀野市役所 403 会議室

出席者

【外部委員】

田中座長、芋川委員、上松(昭)委員、小林委員、島田委員、武田委員、
田村委員、永松委員、羽賀委員、百都委員、渡辺委員

【市】

田中市長、圓山総務部長、井上民生部長、土岐産業建設部長

市長政策課：中野課長、苅部参事、菅原課長補佐

社会福祉課：小菅課長

農 林 課：小林課長

商工観光課：飯野課長

2 議事概要

- (1) H27年度阿賀野市人口ビジョン・総合戦略に関するスケジュールについて
- (2) 阿賀野市人口ビジョン(素案)について
- (3) 阿賀野市総合戦略(素案)について

3 主な意見(○：外部委員、●：市)

(1) 人口ビジョン

- P38 転出の多い10~14歳→15~19歳人口と15~19歳→20~24歳人口の純移動率に対して35%改善するためには、大学・専門学校の誘致や市内の新卒採用を増やすことが必要であり、市の政策として難しいと思う。20代後半~30代後半のUターン者を増やす方が現実的ではないか。
- 純移動率の仮定値の見直しを含めて検討したい。

(2) 総合戦略全般

- 社会増減は新潟市の影響が大きい。新潟市をターゲットにした戦略が具体

的に出せるといい。

- 「子育て環境日本一」、「健康寿命日本一」はどこかのモデルなのか？それともオリジナルなのか？
- 市長公約であり、そこを目標に取り組んでいく。

- 戦略が総花的である。大きい戦略が1つあれば阿賀野市の知名度は上がると思う。もう少し絞り込んだ方が良かったのではないか。
- 本市の戦略として、農業（主に園芸）での雇用創出を掲げている。また、創業支援・事業開発支援の取組が全国に比べても低いので、銀行と協力して支援体制の強化を図りたいと考えている。

- 適正な開発の促進は、規制の撤廃など行政が環境を整えて民間に任せれば、行政がリスクを負うことなくできると思う。民間委託により行政をスリム化すべき。
- 民間への意見を参考にしながら、まちづくりを進めていきたい。

- 達成可能な目標設定をし、P D C Aサイクルによりしっかりと進捗管理していくことが必要。

- 重点分野が34事業あり総花的との意見もあるが、網羅する範囲が広がったことは評価できると思う。5年間でより重点分野を絞り込み、ブラッシュアップしていけば良い。その意味でも基準値、目標値の設定と設定後の評価検証は重要である。

- 全体を網羅した中でも最重点分野を設定しておかないと地方創生の趣旨には合致しない。

- 市が重点的に進めようとしていることと市民が望んでいることはほぼ一致している。農業、観光といった地域資源を活かした産業化、家族・子どもたちが住みやすい環境づくり、愛着意識を醸成するための地域学教育が進むべき方向と思う。

(3) 総合戦略「基本目標1 子育て環境日本一のまちづくり」

- どの市町村でも子育て支援はやっているが、阿賀野市は何をセールスポイントにしてやっていくのか。
- 社会が多様な就労形態となっており、また本市は女性の働く割合が国、県の平均よりも高くなっているため、仕事と家庭の両立支援を推進していきたい。

- 離乳食講習会や乳幼児健診が月曜日か金曜日に開催される。月曜日か金曜日は一般の会社では休みにくいもの。土曜日開催があればいいとの意見も聞いた。
- 乳幼児健診は医師の都合もあり月曜日か金曜日に開催している。離乳食講習会は保護者の要望が強いのであれば土曜日開催も考えなければいけない。貴重な意見として参考にさせていただく。

- 故郷への愛着意識の醸成するため、水原代官所の展示物を充実させるなどして、阿賀野市の歴史・文化を網羅した施設にしたらどうか。

- 故郷への愛着意識の醸成は地方創生において最重要と思っている。社会科だけでなく、算数で阿賀野市の統計資料を使うなど、他教科でも地域学教育を取り入れてもらいたい。

(4) 総合戦略「基本目標2 健康寿命日本一のまちづくり」

- 健康寿命は県レベルしか公表されていないが、「健康寿命日本一」を掲げるのであれば、具体的な数値（市町村独自調べ）が必要と思う。

(5) 総合戦略「基本目標3 安全・安心な暮らしの実現」

- 消防団は地域のコミュニケーションの場という意味でも重要。合併後、活動自体が縮小しているが、消防団員の充足率100%を目指して頑張ってもらいたい。
- 若年層の減少を踏まえ、副分団長を2名体制にすることや消防団活動協力企業に対して入札指名の優遇を図るなどの取組をしている。

(6) 総合戦略「基本目標4 地域経済の活性化」

- P33 地産地消の推進と消費者との交流促進の成果指標「市内農産物の直売・店舗販売額」の目標が低すぎるのではないか。道の駅に直売所を作るのであれば、この目標値では人件費、光熱水費も捻出できず赤字になると思う。
- (水稲以外の) 市内農産物の生産量を増やしていくことが必要と考えている。ご意見を参考にさせていただく。

- 情報発信が重要と思うが、P36 観光情報など情報発信の強化は具体的に何をするのか。
- 観光協会ホームページをリニューアルして、より魅力あるものにしていきたい。現在、ドローンを使い観光施設などの動画配信の準備を進めているところである。

- ホームページの内容を充実させても、相手がアクセスしなければ意味がない。その興味・関心を高める方法を具体的に教えてほしい。
- (転入転出者アンケートによると) 本市の魅力は自然との回答が多いので、「五頭自然郷ヘルス&アグリツーリズム事業」などの事業を通じて、本市の良さを体験してもらいたいと考えている。農業体験ができる地域、健康になれる地域をPRしていきたい。

- 全体として内容に具体性がないように感じるが、「五頭自然郷ヘルス&アグリツーリズム事業」は、1つのテーマを掲げて市民同士が繋がっていける事業であり評価できる。

- 地方創生において、五頭温泉郷の温泉は絶対必要。また瓢湖をどのように活用していくか伺いたい。
- 例えば、「五頭自然郷ヘルス&アグリツーリズム事業」による訪問者から滞在期間中に瓢湖へも訪れてもらえると考えている。また、水きん公園の長寿化事業など施設整備もおこなっている。